

# OFSC POS / OES 標準通信規格と JEHC 業務用厨房機器標準通信仕様書との連携について

北川 貴博 (きたがわ たかひろ) 福島工業株式会社 企画開発部 開発課 課長  
OFSC 厨房システム分科会 分科会長

**要約** POS/OES をはじめとした IT システムは、飲食店において広く一般的に利用されている。対して厨房機器の分野では、IT の活用範囲は小規模なものに留まっている。しかしながら、厨房機器と POS/OES を連携することで生まれる IT ソリューションには発展の余地が残されている。一般社団法人オープン・フードサービス・システム・コンソーシアムと JEHC は協働して POS/OES・厨房機器の通信を標準化する取り組みを行うとともに、「POS/OES と厨房機器の通信標準化・IT による連携」を推進しており、飲食店のオペレーションに変化をもたらす「自動化」や「情報管理」の機能開発を行っている。

## 1. はじめに

飲食業界では現在、POS システム・オーダーエントリーシステム（以下、POS, OES）等の IT システムが広く活用されている。これらの IT システムは店舗の販売管理・店舗運営の効率化等において既に無くてはならない存在となっており、近年ではクラウドやタブレットといった最新のソリューションを利用する POS・OES の存在感も大きくなっている。

POS・OES・プリンタ等の飲食業に関わるソフトウェア・ハードウェアベンダー、およびそのユーザー企業等で構成される一般社団法人オープン・フードサービス・システム・コンソーシアム（Open Food Service Systems Consortium 以下 OFSC）<sup>1)</sup> では、これらのソフトウェア製品並びに周辺機器をメーカー・OS の差異を超えて柔軟に接続するための「OFSC 標準接続規格」（以下、OFSC 標準規格）を制定している。

対して厨房機器の分野においては、JEHC が「業務用厨房機器標準通信仕様書<sup>2)</sup>」（以下、JEHC 標準仕様書）を公開するなどの取り組みが始まっている。しかし IT 活用という面においては少数の機器メーカーが自社機器の温度管理・制御等を目的にソフトウェアを販売しているに留まり、接続できるハードウェア、利用するソフトウェアの両面において他業界に比べ大きく遅れている。

筆者は JEHC 標準仕様書の策定ワーキンググループに関わり、また OFSC においては厨房内の機器に対する OFSC 標準規格の策定を行う「厨房システム分科会」（以下、当分科会）にて今年度より分科会長を務めている。当分科会はフロント業務に関わる POS・OES とバックヤードで使用される厨房機器の連携の模索が主目的であり、本稿ではこれまでの活動内容とその成果について紹介する。

## 2. OFSC について

OFSC は外食企業、IT 企業および関連企業が協力して『外食企業を支えるインフラとしての IT システムの将来像』を作り上げ、また外食企業が直面する「日々の課題」に対する解決策を検討することを目的として、2005 年 2 月に設立された団体である。前述の OFSC 標準規格の開発を全米小売業協会内の組織である ARTS (the Association for Retail Technology Standards) と協働して進めている。

当分科会のほか、プリンタ・OES 等のフロント業務に関わるシステムを担当する「店舗システム分科会」、デジタルサイネージ等の広告宣伝に関わるシステムを担当する「セールスプロモーション分科会」等の活動を行っている。当分科会では現在、店舗システム分科会が担当するフロント業務用のシステムと厨房